

ノリ養殖におけるクロダイの食害の実態とその防護対策について

近年、クロダイによる養殖ノリの食害が全国的に問題となっています。本県でも従来から一部の漁場では食害が確認されていましたが、ここ数年で県下全域に広がっています（図1）。

水産研究所では、食害実態の把握と防護網の効果について調査していますが、本県の主要なノリ養殖漁場の犬島周辺でも食害が疑われたため、ノリの初摘採前の時期にあたる令和5年12月4日～8日に調査を行いました。ノリ網の下に食害を防ぐための防護網を設置（防護網区）、長く薄い金属板で光を反射する忌避材を設置（忌避材区）、無対策（通常区）の3区を設定し（図2）、各区にタイムラプスカメラ（brinno 社製 TLC200Pro）を1機ずつ設置しました。また、カメラ回収時に各区のノリ葉体をサンプリングし、摂食痕を調査しました。

カメラにより、忌避材区と通常区でクロダイの来遊が確認されましたが（写真1）、防護網区では確認されませんでした。

忌避材区と通常区のいずれもクロダイが群れでノリ網に来遊し、多いときには1時間で延べ約1,000個体以上確認されました。忌避材区と通常区のノリ葉体を確認したところ、葉体の先端がささくれ立って短縮化しており、摂食痕が確認されました（写真2）。一方、防護網区のノリ葉体は摂食痕が確認されず、防護網により食害が防げていることが確認できました。

今回の対策に取り組んだ養殖業者から、「防護網は海上での作業量が増えて大変だが、効果が実感できれば、手放せないものとなる。」との話を聞きました。今後、ノリの安定生産のためには、防護対策の実施は避けられないと推測されますが、引き続き、食害の実態及び防護網の効果を調査し、得られた知見を生産者等にフィードバックすることで、さらなる対策の導入促進を図りたいと考えています。

（海面・内水面増殖研究室：横山）



図1 クロダイによる食害の発生状況

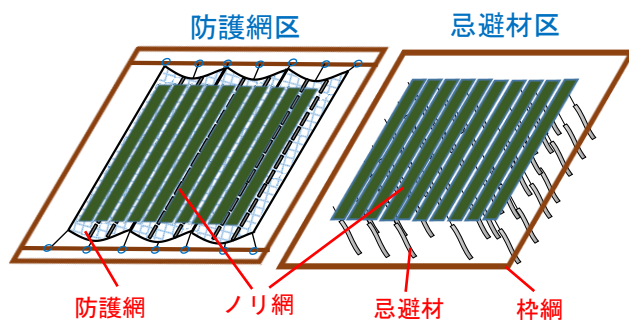


図2 防護対策の模式図

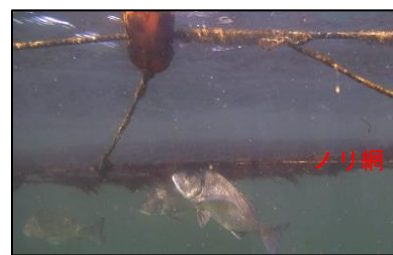


写真1 ノリを捕食するクロダイ

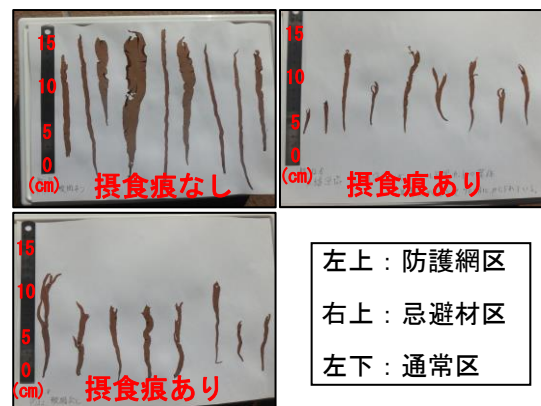


写真2 ノリ網の葉体